

令和元年6月20日現在

機関番号：34301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03491

研究課題名(和文) モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究

研究課題名(英文) The Integrated Research on the Mongolian World Heritage "Great Burkhan Khaldun Mountain".

研究代表者

松川 節 (MATSUKAWA, Takashi)

大谷大学・社会学部・教授

研究者番号：60321064

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,900,000円

研究成果の概要(和文)：「大ブルカン・カルドゥン山及び周辺の祭祀景観」遺産の研究基盤を構築し、世界遺産富士山との比較研究を行った上で、周辺のベレーヴェン寺院・アラシャーンハダ遺蹟の調査・研究と、それらの世界遺産登録のための実効的提言を行い、結果としてもたらされる新たな知見に基づき、モンゴル宗教文化史の再構築をめざした。その成果は、(1)大ブルカン・カルドゥン山祭祀に関するモンゴル語古文書集成を出版し、(2)2018年12月にモンゴル国政府からユネスコに提出された「保存状況報告書」作成に際して、実効的な提言を行い、(3)2018年9月にウランバートルで開催した国際シンポジウムの報告集を出版するという形で公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2018年9月にウランバートル市にて国際シンポジウムを開催し、ユネスコ世界文化遺産「大ブルカン・カルドゥン山及び周辺の祭祀景観」に関する研究・保存・保護について成果を共有した。その学術的意義は、大ブルカン・カルドゥン山祭祀に関するモンゴル語古文書及びチベット語祭祀文献を集成できたことであり、社会的意義は、その保存・保護についてモンゴル国政府に向けて「提言書」を提出したところ、我々のプロジェクトはその国際的および地域的貢献の点でモンゴル国側より高く評価されたことである。

研究成果の概要(英文)：The research work has been aimed for (1) establishing the academic knowledge base of the heritage of "the Great Burkhan Khaldun Mountain and its surrounding sacred landscape," (2) doing the comparative studies with that of Mt. Fuji, and (3) investigating surrounding monastery Bereeven and the site Rashaan Khad in order to give effective proposal for their registration as a World Heritage, based on the resulting new findings, in order to reconstruct Mongolian religious history.

As a result, (1) we published the collection of Mongolian ancient documents on the Great Burkhan Khaldun Ritual, (2) we made an effective proposal for preparing the "Preservation Status Report" submitted to the UNESCO by the Mongolian government in December 2018, (3) we published the papers of the international symposium held in Ulaanbaatar in September 2018.

研究分野：東洋史学

キーワード：東洋史 モンゴル ユネスコ世界文化遺産 祭祀景観 環境保護 国際共同研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

2015年6月、モンゴル国ヘンティ県の「大ブルカン・カルドゥン山及び周辺の祭祀景観」遺産がユネスコ世界文化遺産に正式登録され、モンゴル国において山岳祭祀に関する研究の機運が高まった。研究代表者の松川はこの遺産の「周辺の祭祀景観」に含まれ、世界遺産の暫定リストに掲載される「アラシャーンハダ」遺蹟において、宗教祭祀に関わる岩壁銘文を解読し成果を公表した経緯があった。こうした現況に鑑み、日本とモンゴルの歴史学、考古学、宗教学、民族学、保存科学の各専門研究者が協働し、今までの歴史学・考古学を軸とした研究方法に祭祀文書の研究を加えることによって、大ブルカン・カルドゥン山の山岳祭祀に着目しつつモンゴル宗教文化史を再構築することが差し迫った課題であると認識するに至った。

## 2. 研究の目的

(1)「大ブルカン・カルドゥン山及び周辺の祭祀景観」遺産の研究基盤を構築し、世界遺産富士山との比較研究を行った上で、(2)周辺のベレーヴェン寺院・アラシャーンハダ遺蹟の調査・研究と、それらの世界遺産登録のための実効的提言を行い、(3)結果としてもたらされる新たな知見に基づき、モンゴル宗教文化史を再構築することをめざした。

## 3. 研究の方法

計22人の研究参加者(研究代表者:松川,研究分担者:三宅,井上,白石,二神,藤井,山口,研究協力者:包慕萍(東京大学生産技術研究所協力研究員),本中眞(前・内閣官房内閣参事官),オチル,チョローン,ツォクトバートル,ハシマルガド,サロールボヤン,アムガラ,デムベレル,エンフバト,アルタンスフ,ナランゲレル,スレンハンダ,プレブジャブ,ボルマー)は、2つのグループに分かれ、「大ブルカン・カルドゥン山及び周辺の祭祀景観」遺産に関する基礎的研究並びに現地調査を行った。

グループ1:大ブルカン・カルドゥン山及び周辺遺蹟の歴史考古学的研究と文化遺産保存保護に向けての提案(松川,白石,二神,藤井,山口,包,本中,オチル,チョローン,ツォクトバートル,ハシマルガド,エンフバト,アルタンスフ,スレンハンダ,ナランゲレル,プレブジャブ)

グループ2:大ブルカン・カルドゥン山に関するモンゴル語・チベット語古文書の収集・解読研究と出版(松川,井上,三宅,チョローン,ツォクトバートル,サロールボヤン,アムガラ,デムベレル,ボルマー)

現地調査の日程と参加者は以下のとおりである。

2016年8月(モンゴル国):大ブルカン・カルドゥン山周辺・ベレーヴェン寺院・アラシャーンハダ遺蹟(松川,藤井,二神,山口,ツォクトバートル,ハシマルガド,サロールボヤン,アムガラ)

2017年8月(モンゴル国):フフノール,ベレーヴェン寺院・アラシャーンハダ遺蹟(松川,藤井,山口,ツォクトバートル,サロールボヤン,スレンハンダ,バトツェツェグ,デムベレル,ボルマー)

2017年10月(日本):富士山及びその関連遺産(松川,ツォクトバートル,ハシマルガド)

2018年5月(モンゴル国):大ブルカン・カルドゥン山周辺(松川,ツォクトバートル,ハシマルガド)

2018年7月(日本):富士山及びその関連遺産(松川,ツォクトバートル,ハシマルガド,サロールボヤン)

研究集会の日程と参加者は以下のとおりである。

2016年5月14日(於:大谷大学)国内研究会:松川,三宅,井上,白石,二神,藤井,山口,包,ボルマー。

2016年11月25日(於:大谷大学)国内研究会:松川,三宅,井上,白石,二神,藤井,山口,包,ボルマー, B. ツォクトバートル, B. ハシマルガド, S. スレンハンダ, N. ナランゲレル。

2018年1月8日(於:ウランバートル市)ワークショップ「世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山とその周辺の神聖な景観」マネジメントをめぐる諸問題」:松川,二神,ツォクトバートル,ハシマルガド,サロールボヤン,エンフバト。

2018年9月21-22日(於:ウランバートル市)国際シンポジウム「世界遺産「ブルカン・カルドゥンとその周辺の神聖な景観」研究・保存・保護」:松川,三宅,井上,二神,藤井,山口,包,本中,オチル,チョローン,ツォクトバートル,ハシマルガド,サロールボヤン,エンフバト,スレンハンダ。

## 4. 研究成果

歴史考古学的研究の成果

白石は単著『モンゴル帝国誕生 チンギス・カンのを掘る』を著し、大ブルカン・カルドゥン山に関する最新の考古学的研究成果を公表した。S. チョローンは大ブルカン・カルドゥン山に関するモンゴル人学者の研究概況をまとめて公表した。A. オチルは大ブルカン・カルドゥン山祭祀と今後の研究課題について論考を発表した。松川は日本モンゴル共同ハン・ヘンティ・プロジェクトの成果と展望について報告した。B. ツォクトバートルは、「大ブルカン・カ

ルドゥン山及び周辺の祭祀景観」地域における考古遺跡とその保存保護についての概要を公表した。J. サロールボヤンは、モンゴル人が大ブルカン・カルドゥン山の名前をタブー視してきた歴史について研究成果を公表した。藤井は近代のモンゴル人が大ブルカン・カルドゥン山をいかに見なしてきたか、調査成果を公表し、また『元朝秘史』に記述された、ブルカン・カルドゥン山にテムジンが逃走した一件に果たしたウリヤンカイ一家の役割について論考を公表した。スルンハンダ、D. スィルティボワは、バイカル湖周辺の「大禁地」の祭祀について研究成果を公表した。包はチンギス・カンの本拠地であったアウラガ遺跡の第一宮殿址について建築学的研究成果を公表した。N. ナランゲレルは大ブルカン・カルドゥン山周辺の古い地名の収集とデータベース化について、国立言語政策局が果たす役割について報告した。E. プレブジャブは、『元朝秘史』にあらわれる大ブルカン・カルドゥン山及びその他の関連地名について専門的知識を提供した。

#### 文化遺産学的研究の成果

本中は世界遺産「富士山 信仰の対象と芸術の源泉」の登録過程、現状と課題について、大ブルカン・カルドゥン山と比較しつつ報告した。二神は日本の世界遺産における「普遍的価値」を例として、大ブルカン・カルドゥン山の保存とマネジメントの問題について研究成果を公表した。山口は大ブルカン・カルドゥン山と関連する文化遺産のデジタルドキュメンテーションとその利活用について、研究成果を公表した。G. エンフバトは大ブルカン・カルドゥン山遺産の保護のためにモンゴル国立文化遺産センターが行っている施策について報告した。

#### モンゴル語・チベット語古文献研究の成果

井上はモンゴルにおける山岳信仰・祭祀に関わるサン(sang)文献について研究成果を公表した。三宅はモンゴルの著名な僧侶ザワ・ダムディンがチベット語で著したハンヘンティ山祭祀経の内容について研究成果を公表した。N. アムガランはヘンティ県新発見のチンギス・カン祭祀関連経文について研究成果を公表した。S. デムベレルは、本科研計画において新たな発見されたチベット仏教文献の概要について報告した。

#### 研究成果の国内外における位置づけ・インパクト

2018年9月にウランバートル市にて国際シンポジウムを開催し、ユネスコ世界文化遺産「大ブルカン・カルドゥン山及び周辺の祭祀景観」に関する研究・保存・保護について、3年間の研究成果を共有した。その学術的意義は、大ブルカン・カルドゥン山祭祀に関するモンゴル語古文書及びチベット語祭祀文献を集成できたことであり、社会的意義は、その保存・保護についてモンゴル国政府に向けて「提言書」を提出したところ、我々のプロジェクトはその国際的および地域的貢献の点でモンゴル国側に強いインパクトを与え、高く評価されたことである。結果として、2018年12月にモンゴル国政府からユネスコに提出された「大ブルカン・カルドゥン山及び周辺の祭祀景観遺産保全状況報告書」において、本科研に基づく日本モンゴル共同プロジェクトの成果(2018年1月のワークショップ及び2018年9月の国際シンポジウム)が記載された(<http://whc.unesco.org/en/list/1440/documents/>)。

#### 今後の展望

本プロジェクトは、「大ブルカン・カルドゥン山及び周辺の祭祀景観」遺産の研究基盤を構築することを主眼としたもので、大ブルカン・カルドゥン山祭祀について歴史文献学・考古学・民族学・世界遺産学の各面からアプローチを行った結果、その目的は十分に達成することができた。しかしながら、大ブルカン・カルドゥン山に生まれ、そこに葬られたとされるチンギス・カンとの関連について、また、世界遺産として、今後いかなる保存保護・マネジメントが必要であるかを富士山と比較しつつ研究していくことは、今後の課題として残されている。本プロジェクトによって築かれた日本とモンゴルの共同関係は、これらの課題解決に向けてさらなる協働を続けていくために生かされるであろう。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計11件)

1. МАЦУКАВА, такаши“Монгол япон хамтарсан Хан Хэнтий төслийн үр дүн, цаашдын зорилт” “WORLD HERITAGE-GREAT BURKHAN KHALDUN MOUNTAIN AND ITS SURROUNDING SACRED LANDSCAPE: RESEARCH, PRESERVATION AND PROTECTION” INTERNATIONAL CONFERENCE Sep. 21-22, 2018 Ulaanbaatar, Mongolia. PAPERS 2019, 【以下, PAPERS と略称】 Ulaanbaatar. pp. 35-37. (査読なし)
2. ИНОУЭ осаму “Монголын газар орноос олдсон уулыг тахих сангийн тухай” PAPERS 2019, pp. 59-62. (査読なし)
3. 三宅伸一郎「ツァワ・タムディン(1937-1867)によるハン・ヘンティの神がみに対するサン(bsang) 供養の儀式に関する一小品について」PAPERS 2019, pp. 73-81. (査読なし)
4. 二神葉子「聖なる場所に関連する日本の世界遺産 - 顕著な普遍的価値とその保全管理の課題 - 」PAPERS 2019, pp. 95-98. (査読なし)
5. ФҮЖИЙ, мако “Бурхан халдун уулыг орчин үеийн хүмүүс хэрхэн үзэж байгааг өгүүлэх нь Хур бороо оруулахыг хүсэн мөрөөдөх талаас үзэх нь ” PAPERS 2019, pp. 127-137. (査読なし)
6. SURUN-KHANDA, Syrtyanova. “On the Mongolian tradition of creating protected areas “IH-HORIG”(on the example of Transbaikalia)” PAPERS 2019, pp. 93-94. (査読なし)

7. 包慕萍「アウラガ遺跡の「第1号建物」の発掘平面に関する建築史的考察」*PAPERS* 2019, pp. 105-113. (査読なし)
8. 藤井真湖「『元朝秘史』におけるコアクチン老婆～ブルカン山へのテムジンの逃走において果たしたウリヤンカイ一家の役割～」『愛知淑徳大学論集 グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科篇』Vol.11, 2019, pp. 43-64. (査読あり)(電子ジャーナル URL <http://hdl.handle.net/10638/00008144>)
9. MATSUKAWA, takashi “On the Oirad Script Stone Sūtra Preserved in the Otani University Museum” *Oyirad Studies* 2, 2017, pp.4-9. (査読あり)
10. МАЦУКАВА, такаши “Японд хадгалагдаж буй Монгол Ганжуур, Данжуурын тухай товч мэдээ” *The Mongolian Kanjur. International Studies*. 2017, Ulaanbaatar, pp.151-157. (査読あり)
11. 二神葉子「世界遺産委員会に見る諮問機関の評価とその課題」『世界遺産推薦書の評価のプロセスと諮問機関の役割』2017, pp.17-22. (査読あり)

〔学会発表〕(計3件)

1. N. アムガラン・松川節「18～19世紀にモンゴルに招聘されたチベット僧の著作について」第65回(2017年度)日本チベット学会学術大会(国際学会)2017年11月25日, 於: 佛教大学。
2. 山口欧志「文化財のデジタル文化資源化: 見たままの姿を伝え、深層を探る」奈良文化財研究所 第9回東京講演会「デジタル技術で魅せる文化財 奈文研とICT」2017年10月23日, 於: 有楽町朝日ホール。
3. 三宅伸一郎・松川節「寺本婉雅旧蔵のモンゴル仏教史について」日本モンゴル学会 2016年度秋季大会(国際学会)2016年11月26日, 於: 大谷大学。

〔図書〕(計4件)

1. TSOGTBAATAR, B. (ed.) “WORLD HERITAGE-GREAT BURKHAN KHALDUN MOUNTAIN AND ITS SURROUNDING SACRED LANDSCAPE: RESEARCH, PRESERVATION AND PROTECTION” *INTERNATIONAL CONFERENCE Sep. 21-22, 2018 Ulaanbaatar, Mongolia. PAPERS* 2019, Ulaanbaatar. (180pp.)
2. TSOGTBAATAR, B. (ed.) *БҮРХАН ХАЛДУН ХАЙРХАНЫ ТАХИЛГА баримтын эмхэтгэл*. 2019, Ulaanbaatar (705pp.)
3. 白石典之『モンゴル帝国誕生 チンギス・カンの都を掘る』講談社(選書メチエ), 総241頁, 2017年6月。
4. 二神葉子(分担執筆)『世界遺産用語集』(改訂版)東京文化財研究所編, オフィス HANS。総150頁, 2017年。

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名: 三宅 伸一郎

ローマ字氏名: MIYAKE, shinichiro

所属研究機関名: 大谷大学

部局名: 文学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 00367921

研究分担者氏名: 二神 葉子

ローマ字氏名: FUTAGAMI, yoko

所属研究機関名: 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所

部局名: 文化財情報資料部

職名: 室長

研究者番号(8桁): 10321556

研究分担者氏名: 白石 典之

ローマ字氏名: SHIRAISHI, noriyuki

所属研究機関名：新潟大学  
部局名：人文社会科学系  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：40262422

研究分担者氏名：山口 欧志  
ローマ字氏名：YAMAGUCHI, hiroshi  
所属研究機関名：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所  
部局名：埋蔵文化財センター  
職名：アソシエイトフェロー  
研究者番号（8桁）：50508364

研究分担者氏名：井上 治  
ローマ字氏名：INOUE, osamu  
所属研究機関名：島根県立大学  
部局名：総合政策学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：70287944

研究分担者氏名：藤井 麻湖（藤井真湖）  
ローマ字氏名：FUJII, mako  
所属研究機関名：愛知淑徳大学  
部局名：交流文化学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：90410828

## (2)研究協力者

研究協力者氏名：包 慕萍  
ローマ字氏名：BAO, muping

研究協力者氏名：本中 眞  
ローマ字氏名：MOTONAKA, makoto

研究協力者氏名：B. ツォクトバートル  
ローマ字氏名：TSOGTBAATAR, B.

研究協力者氏名：S. チョローン  
ローマ字氏名：CHULUUN, S.

研究協力者氏名：B. ハシマルガド  
ローマ字氏名：KHASHMARGAD, B.

研究協力者氏名：A. オチル  
ローマ字氏名：OCHIR, A.

研究協力者氏名：J. サロールボヤン  
ローマ字氏名：SARUUNBUYAN, J.

研究協力者氏名：G. エンフバト  
ローマ字氏名：ENKHBAT, G.

研究協力者氏名：スルンハンダ, D. スィルティポワ  
ローマ字氏名：Surun-Khanda, D. Syrtypova

研究協力者氏名：N. ナランゲレル  
ローマ字氏名：NARANGEREL, N.

研究協力者氏名：E. プレブジャブ  
ローマ字氏名：PUREVJAV, E.

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。